

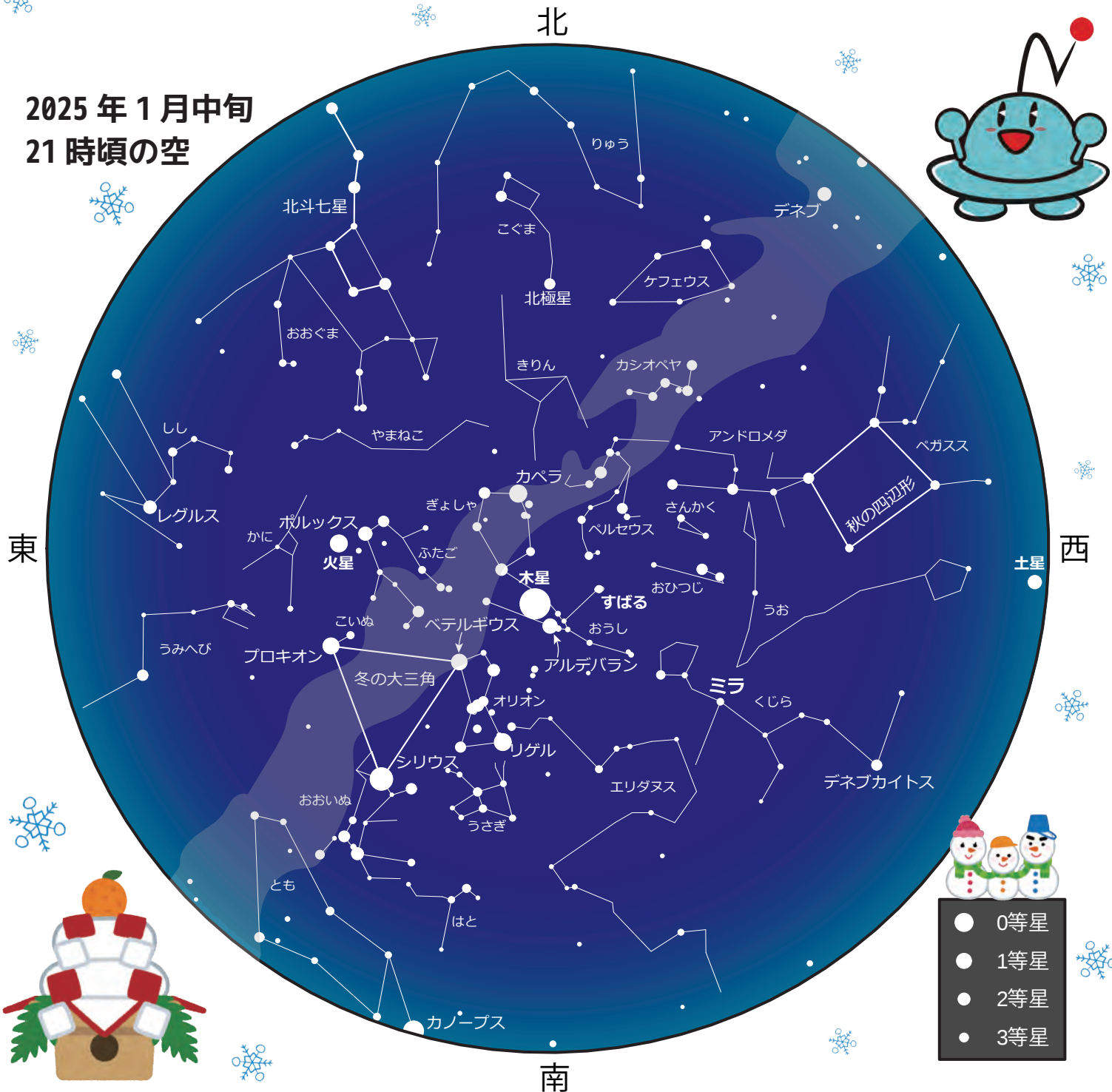


阿南市科学センター



1月の星空案内

2025年1月中旬
21時頃の空



あけましておめでとうございます!夜空を見上げてみると新年をむかえるのにふさわしい賑やかな夜空になっています。南を向いてみるとまず目に入るのは**オリオン座**でしょう。オリオン座に赤く輝く一等星**ベテルギウス**(約0.5等)とその東側に輝く一等星**プロキオン**(約0.4等)、そして全天で一番明るい一等星**シリウス**(約-1.4等)をつなぐと**冬の三大角**が出来上がります。さらには今冬限定の星の並びとして、シリウスと**木星**(約-2.6等)、そして1月に最接近をむかえる**火星**(約-1.4等)の3つのマイナス等級の星たちをつないだ冬の特大三角を楽しむこともできます。1月4日の0時頃に、三大流星群の内一つ、しぶんぎ座流星群が極大をむかえます。好条件なため、たくさん流星を見れるかもしれません。

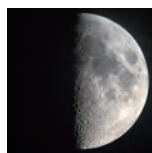
天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<https://www.ananscience.jp/science/>

1月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
7日



満月
14日



下弦
22日



新月
29日

1月の天体観望会で月が見える日時は？



1/4(土)・・・18時、19時の回で観察可能



1/11(土)・・・全ての回で観察可能

水星：上旬頃、夜明け前東のごく低空で見える。【-0.4等】

金星：日没後、西の空で見え、10日に東方最大離角をむかえる（宵の明星）。【-4.5等】

火星：宵の口から東の空で見えはじめる。【約-1.4等】

木星：宵の口から東の空で見えはじめる。【約-2.6等】

土星：宵の口から西の空で見えるが、前半夜のうちに沈んでしまう。【約1.1等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。ただし水星は1/1の明るさ。



ガリレオ・ガリレイ
(1564-1642)

宵の明星がとても
観察しやすいぞ！
望遠鏡で観察する
と、ちょうど半分
くらいに欠けて見
えるのだ。

今月の天文現象

【火星と地球が最接近】



図1 最接近時の地球と火星（2022～2035年）

2025年1月12日は地球と火星が最接近します。このとき明るさは約-1.4等となります。これは全天で一番明るい恒星シリウスと同じくらいの明るさです。肉眼で観察すると火星は赤色の輝きも印象的です。これは火星の表面が酸化鉄（赤サビ）を多量に含む岩石や土に覆われていることに由来しています。

ところで、火星と地球の接近は約2年2ヶ月ごとに起こりますが、互いの距離は毎回同じではありません。火星は太陽系の惑星の中でも強くひしゃげた楕円軌道を持っています。そのため、地球との接近は距離が約5000万km台の「大接近」という時もあれば、約1億kmを超える「小接近」になることもあります。2025年の接近は小接近に近い状態ですが、四国最大の望遠鏡で観察すれば、条件次第で火星の模様がわずかに見えるかもしれません。

イチオシ天体写真

【目でも見える星団 “すばる”】

おうし座の左肩に輝く青い星々、すばるは他にもM45やプレアデス星団といった名称で親しまれています。すばるは「統（すば）る」が語源となっており、ひとつに集まるものという意味があります。そんなすばるは枕草子に「星はすばる～」といった文があるように、昔から親しまれてきた天体です。望遠鏡がなかった時代から親しまれている天体なので、肉眼で見える天体で、視力がいい人は6,7個ほど星が別れて見ることができます。

すばるは詳しくは数百個の星が集まる散開星団という星団に分類され、若い星たちが集まっており、星団の年齢は約6000万歳とされています。人間の尺度で測ると分かりづらいですが、50億歳くらいの太陽と比較してみるとその若さが際立ちます。

すばるを観察するには肉眼はもちろんですが、双眼鏡や低倍率の望遠鏡使うとよりたくさんの星を見ることができます。携帯のカメラでもすばるの星々をとらえることができるので、写真を取りたいという方はぜひ、夜空に携帯をかざしてみてください。



図2 M45 / すばる / プレアデス星団

(2024年11月30日 鳴門市内で撮影 / by Y. Wakafuji)